

令和3年8月16日

秋田由利本荘洋上ウインドエナジー株式会社
九電みらいエナジー株式会社
代表取締役社長 水町 豊 様

日本野鳥の会秋田県支部
支部長 佐々木 均 (公印省略)
秋田県横手市前郷一番町 1-21

公益財団法人 日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一 (公印省略)
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

日本雁を保護する会
会長 呉地 正行 (公印省略)
宮城県栗原市若柳川南南町 16

「(仮称)秋田県由利本荘市沖洋上ウインドファーム事業」に係る
環境影響評価方法書に対する意見書

現在、貴社が公告・縦覧および住民意見を募集している「(仮称)秋田県由利本荘市沖洋上ウインドファーム事業」に係る環境影響評価方法書に対して、鳥類の保全の観点から下記の通り意見を述べる。

記

2020年10月15日付で貴社に提出した当該事業に係る計画段階環境配慮書に対する意見書の中で述べたように、対象事業実施区域(以下、計画地という)を含む周辺海域(以下、当該海域という)は、海鳥の重要生息地(マリーン IBAs)の選定海域であり、渡り鳥の重要な経路と重なっていること、また、計画地の周辺で繁殖する希少猛禽類であるミサゴの採餌海域となっていることなどから、鳥類の保全の観点から考えて、当該海域は計画地から除外されるべきである。そのため、本事業は環境影響評価準備書の作成に進まずに、現段階をもって事業を中止すべきである。

貴社が、この海域であえて事業を進めるのであれば、鳥類および海洋生態系に対する影響が回避されていることを確実に証明できなければならない。そのためには、綿密な調査に基づいた環境影響評価を行うことが必要であり、甚大な影響があることが予想された場合は、影響の軽減のために、計画の大幅な修正を行うべきである。

以下に現地調査を行う場合の注意点を述べるが、ここでの意見は、前述の立場に立ったうえで、方法書の記載内容について述べるものであり、準備書の段階に進むことを容認するものではない。

1. 方法書に記載されている鳥類調査の方法について

(1) 渡り鳥調査(定点観察法による調査)について

計画地および当該海域の渡り鳥の状況を調べるのに、方法書に記載されている春(3~5月)・夏(6~8月)・秋(9~11月)・冬(12~2月)の4季において各季1回3日間を計4回のべ12日間という調査回数では、計画地および当該海域の渡り鳥の状況を把握

するには不十分である。渡り鳥の状況は下記に示すように、それぞれの鳥の種類により渡りの時期が異なるため、定点観察調査は毎月行うことが望ましい。特に春（2月中旬～5月下旬）と秋（10月中旬～11月中旬）は数多くの渡り鳥が計画地周辺を移動しているため、調査回数・日数ともに他の時期よりも多く実施し、風車の建設による渡り鳥への影響の有無を評価すべきである。また、夏（6～8月）および冬（12～2月）は、本来は渡り鳥の渡来・渡去の時期ではないため、この時期に実施する鳥類調査は、例えば、一般鳥類調査、任意定点調査、越冬鳥類調査など、別の調査項目を設定したうえで調査すべきである。

【日本野鳥の会秋田県支部による計画地および当該海域における渡り鳥の確認状況】

（春）

- ・2月～4月上旬はガン（写真1）・カモ・ハクチョウ類がそれぞれ少しずつ時期をずらしながら計画地および当該海域を通り、北へ移動する。近年の動向としてガン類の渡りは2月から動きがあることが多いため、調査の時期はその年の天候を見ながら慎重に設定すべきである。ガン類が洋上を飛翔する様子は秋田県支部HPに掲載されているので参照いただきたい（tantyoakita.la.coocan.jp/yurihonjo-furyoku.html）。また、陸ガモおよび海ガモを含むカモ類は種類によって渡去の時期が半月から1か月程度異なることに留意すべきである。オオセグロカモメ等のカモメ類もこの時期に渡去する。
- ・3月～5月にはオジロワシ（環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類・国内希少野生動植物種）が由利本荘市付近から渡去し、ミサゴ（環境省レッドリスト準絶滅危惧Ⅱ類）が飛来する。またノスリ、サシバ（環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）・ハククマ（環境省レッドリスト準絶滅危惧Ⅱ類）が飛来・北上する。さらに、ミズナギドリ類（写真2）、サギ類、シギ・チドリ類、アジサシ・コアジサシ（環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）、ヒヨドリ（写真3）等の渡りが計画地および当該海域で確認されている。

（秋）

- ・8月中旬～9月下旬にはシギ・チドリ類が計画地および当該海域を南下する。また、サギ類が南下する可能性がある。
- ・8月下旬～10月にはサシバ、ハククマ等のタカ類が計画地および当該海域を通過して南下することが確認されている。
- ・10月～11月中旬にはハクチョウ類、淡水ガモ類、ダイサギ（写真4）の渡りが計画地および当該海域で確認されている。また、ノスリ等の渡りが計画地沿岸で確認されており、当該海域も利用する可能性がある。
- ・11月～12月にはガン類が南下するが、計画地および当該海域を利用することが確認されている。また由利本荘市付近にシジュウカラガン（環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠA類）が飛来するが、計画地および当該海域を利用する可能性がある。
- ・11月～12月には由利本荘市付近にオジロワシが飛来するが、この時に計画地および当該海域を利用する可能性がある。

(2) 越冬期の定点調査の実施の必要性について

12月～2月にはガン・カモ・ハクチョウ類が天候や積雪量によって越冬地間の移動を繰り返す。また、ミツユビカモメ、カモメ、ワシカモメ、シロカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ等のカモメ類は餌動物の移動や天候に応じて港湾・沿岸から沖合の間で移動を繰り返す。そのため、貴社は12月～2月にも毎月定点調査を実施し、こういった冬期の鳥類の生息状況を把握したうえで、風車の建設による鳥類への影響を評価すべきである。

なお、鳥類の観測地点には計画地南端から約2km南に位置するにかほ市の平沢海岸と平沢漁港も含めるべきである。平沢漁港周辺は、この海域の中でも屈指のカモメ類の集合場所であり、計画地との往来も頻繁に確認されていることから風車の建設がこれらカモメ類の動きに影響を与えることが懸念される。平沢海岸、平沢漁港のカモメ類の状況を把握し、

影響について評価すべきである。

2. その他、調査の実施にあたり留意すべき点について

- ・ガン・カモ・ハクチョウ類の春の渡りや移動の時期や経路は、その年または時期の積雪量や気温によって大きく変わる。また、鳥類でも特にガン・カモ・ハクチョウ類は晴天時のみならず、強風や降雪などの悪天候の日でも飛翔することがある。そのため貴社は、これらの鳥類の生息状況を調査するにあたり、2月中旬から3月下旬までの間は計画地および当該海域周辺において、任意の定点調査を複数回実施できるような体制を準備すべきである。なお、調査は悪天候の日にも実施し、鳥類が風車を視認しづらい悪天候時の行動に関するデータについても取得し、影響を評価すべきである。
- ・貴社が設置予定の風車は、海面からの高さ約230m、ローター直径が200mという巨大なものであり、計画地および当該海域を飛翔するガン・カモ・ハクチョウ類の飛翔高度や飛翔空域と大きく重なる。これらの鳥類がこの風車の高さを越えるため、または迂回するためには、かなりのエネルギーを消費する。英国の研究では、鳥類が風車等の障害物を10km迂回すると、一日に消費する飛翔のためのエネルギーの20%をより消費することが分かっている(E. Masden 2010)。鳥類への影響を詳細に把握し予測するためには、まず、鳥類の飛翔高度および飛行経路を正確に調べ、どの程度の迂回距離等が生じる可能性があるかを予測する必要がある。これを実現するためには、Vector21AERO (SAFRAN社製)のような、レーザーにより対象物の位置(緯度・経度、標高、対象物までの距離、仰角)や対地高度を算出することができるレーザー測距機等を使うことが望ましい。
- ・ミサゴは、由利本荘市付近へ3月上旬に飛来し、繁殖する。そして、11月初旬から中旬頃になると南へと移動する個体が多い。当該海域は魚食性のミサゴの重要な採餌場所となっている。そのため、ミサゴの行動圏と設置予定の風車の影響の有無を適切に把握するためには、単に計画地で採餌の際に利用する海域だけでなく、営巣位置や巣場所周辺の環境、繁殖状況等も把握する必要がある、その際には繁殖を阻害しないように慎重に調査を行うべきである。

また、先進地欧州において、洋上風力発電の打設工事後、数年たってもニシンがその海域を訪れることがなくなったとの報告がある(Wildlife and Wind Farms, conflicts and solutions, Martin Perrow, 2019)。当該海域でハタハタをはじめとする魚類が減少した場合、鳥類にどのような影響があるのか予測し、評価すべきである。
- ・秋田港・能代港において先行する洋上風力発電事業の打設工事が始まっているが、打設音が魚の動きを遠ざけていることが一般市民による測定で確認されている。貴社が設置予定の風車はこの風車よりサイズが大きいため、秋田港や能代港の事業よりも大きな影響が出ることが予測される。魚群の動きの変化は魚食性鳥類の分布にも影響を与える可能性が高いため、実際にどのくらいの音が出るかシミュレーションを行い、それが魚群の動きに与える影響を予測し評価すべきである。

なお、この意見は概要にまとめる際に原文を掲載し、添付写真も掲載または添付することを希望する。

以上

<添付資料>



(写真1) 2018年2月22日 ガン類. 本荘浜沖1~1.5 km 本荘浜より撮影



(写真2) 2000年4月30日 オオミズナギドリ 象潟沖約10 km付近 飛島航路にて撮影



(写真3) 1997年5月3日 ヒヨドリ 象潟沖約10km付近を北上 飛島航路にて撮影



(写真4) 2020年11月6日 ダイサギ 本荘浜沖約600m 本荘浜より撮影